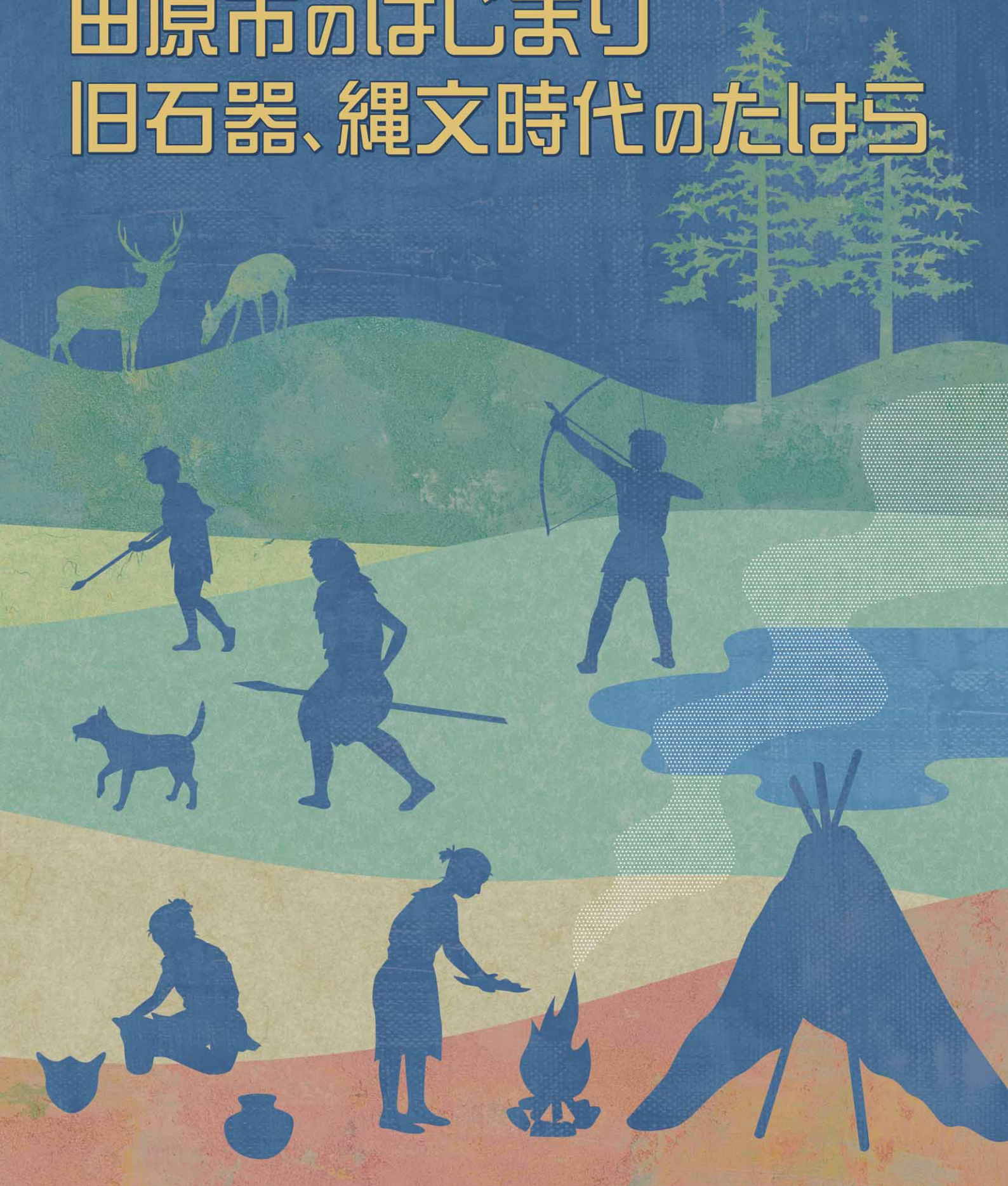


田原の文化財ガイドⅠ

田原市のはじまり

旧石器、縄文時代のたはら



田原の文化財ガイドⅠ

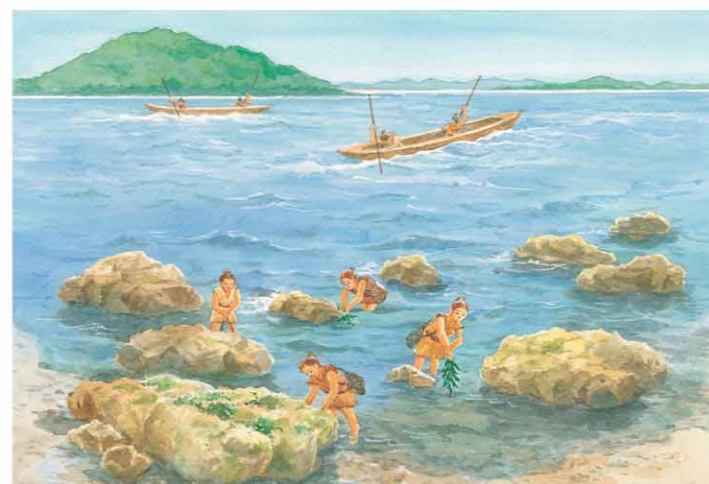
田原市のはじまり

旧石器、縄文時代のたはら



もくじ

- 01 はじめに
- 02 時代のあらし・遊動する人たち 旧石器時代
- 04 時代のあらし・定住と貝塚の時代 縄文時代
- 05 主な遺跡の紹介
- 06 宮西遺跡
- 08 雁合遺跡
- 10 籠田遺跡
- 11 北屋敷貝塚
- 12 伊川津貝塚
- 14 吉胡貝塚
- 16 川地貝塚
- 17 保美貝塚
- 18 もっと知ろう、旧石器・縄文人の暮らし
- 19 縄文人が食べた食物
- 20 縄文のおしゃれ
- 21 縄文のマツリと貝塚
- 22 葬られた縄文人
- 23 貝輪づくりのムラ
- 24 ためになる知識
- 28 旧石器・縄文遺跡の時代／分布図
田原にあるその他の遺跡



渥美半島は愛知県の南にあり、長さ約50km、幅約10km前後の東西に延びる珍しい半島です。北は内湾の渥美湾・三河湾、西は伊勢湾口、南は太平洋に面しそれぞれの環境にすむさまざまな海の資源に恵まれています。また、半島の中央部には山が連なり、起伏に富んだ台地には山や野の恵み、そしてその山や台地を水源とした川が海へと流れ込み、干潟が^{ひがた}つくられ多くの魚介類をはぐくんでいます。このように渥美半島はさまざまな自然資源に恵まれた場所であるといえます。これらの豊かな自然からもたらされた恵み、温暖な気候の中で、私たちの祖先はこの渥美半島で生活をし、足跡を残してきたのです。さあ、田原市の祖先の足跡を今からたどっていきましょう。

遊動する人たち 旧石器時代

[13000年前まで]

この時代は今より寒く、もっとも寒かった24000～22000年前には平均気温が5～7度低く、海面は100mも低かったといわれています。西日本でも植物は冷温帯落葉広葉樹林れいおんたいらくようこうようじゅりんが(現在の植生は照葉樹林しょうようじゅりん)、動物はオオツノジカ、ナウマンゾウなどの大型の動物類が生息していました。渥美半島で人々が暮らし始めた頃もこのイメージに近く、想像以上に気候は厳しく現在とは異なる環境でした。三河湾も伊勢湾も存在せず、人々の陸路による行き来も盛んだったことでしょう。

当時は狩猟に重きをなし動物たちを追い、季節ごとに遊動生活を続けていたことが想像されます。そして、食料はこの時代の終わりにドングリなどの植物性食料に変わっていきました。

渥美半島では後期旧石器時代後半(約24000年前)から人々が暮らし始めていたようです。旧石器時代の石器は、亀山町の川地遺跡、野田町の籠田遺跡・山崎遺跡、そして大久保町の宮西遺跡で見つかっています。

解説

この復元図は、宮西遺跡を中心とした、旧石器時代から縄文時代が始まった頃のひとたちの暮らしを復元したものです。野田町、大久保町の水田地帯も昔は湿地で、動物が水場をもとめて集まってきました。そこは、当時の人たちの絶好の狩場だったことでしょう。多くの狩人が集まり、当時の中心的な活動の場となっていました。ここでは石器づくりも行われ、その材料となる石が速くから運び込まれ、交換が行われ多数の人たちが行き来した、にぎやかな場所

でした。そして、やがて気温の上昇とともに、狩場や、キャンプ地ではなく、中心的な集落へとかわっていったのです。

注●冷温帯落葉広葉樹林は、ブナ、ミズナラ、トチノキ、クルミなどが生息する。現在の分布範囲は主に東北地方の山間部である。照葉樹林は亜熱帯から暖温帯に分布する。葉が光っているヤブツバキ、シイ、カシ、タブノキ、ホルトノキなどで構成される。



定住と貝塚の時代 縄文時代

[13000～2300年前]

この時代には気候が暖かくなったことによって氷がとけて海面が上昇し(縄文海進)、魚介類の生息しやすい入り江が発達し、ドングリが実る森も増えました。これらの豊かな自然環境を背景に、土器・弓の発明、海の資源の利用など新しい文化が生まれました。土器で食料を煮炊きすることで、柔らかくし、そしてアクなどが取り除かれ、食料のリストが増えました。熱による殺菌効果は衛生面を大きく改善したうえ、特定の食料を頼って遊動生活する必要がなくなったのです。

森・海の資源を有効に活用するために縄文人は定住できる家を作り、複数の家族と集落を作ります。定住するためには衛生面を確保するためにトイレやゴミ捨て場の設定、資源の取り過ぎの規制などさまざまな社会のきまりを作る必要があります。また、社会を安定させるための工夫として人々は様々なマツリを行いました。

渥美半島の縄文時代の特徴は、後期の終わりから作られた大規模な貝塚です。特に埋葬方法、埋葬に伴う様々な副葬品が発達しました。吉胡・伊川津・保美・川地貝塚は、埋葬人骨が、大正時代から大量に発掘され全国に知られています。

- 土器…日本のやきものは、縄文時代にはじまりました。土器は700～800度で焼かれたといわれ、イギリスの考古学者V・Gチャイルドは「土器の製造は人類がはじめて化学変化を利用したものである」と言っています。
- 弓…木などの反発力を利用し、矢を遠くまでとばし獲物を得ることができるようになりました。



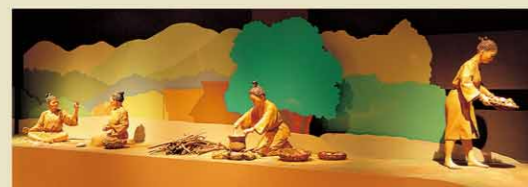
狩りのようす (吉胡貝塚資料館常設展示より)



野山での採集のようす (吉胡貝塚資料館常設展示より)



干潟での漁のようす (吉胡貝塚資料館常設展示より)



日々のくらしのようす (吉胡貝塚資料館常設展示より)



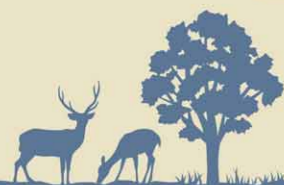
海での刺突漁 (吉胡貝塚資料館常設展示より)

主な遺跡の 紹介

- 宮西遺跡
- 雁合遺跡
- 籠田遺跡
- 北屋敷貝塚
- 伊川津貝塚
- 吉胡貝塚
- 川地貝塚
- 保美貝塚



吉胡貝塚史跡公園



宮西遺跡

【みやにしせいせき】大久保町宮西
後期旧石器時代～縄文時代草創期(20,000～10,000年前)

※年代は実際に遺跡が見つかった年代

大久保町の浅場集落の南、国道から800m南に広がった平地に位置します。ここは西山、長興寺山、藤尾山が連なる山脈と、通称向山に挟まれた平地で、遺跡付近はわずかに高くなっています。ここが分水嶺となつて西は今池川となり野田町を経由して、三河湾に流れ、東は汐川の流れとなり田原市市街地を経て田原湾に注いでいます。向山の南斜面に位置する雁合遺跡とは、この分水嶺によって向かい合っています。

昭和27・28年に愛知大学が発掘調査を行い、弥生時代後期の住居跡が見つかったほか、弥生時代の土器、縄文時代早期の押型文土器、石槍などが見つかっています。平成16年度の田原市の調査では、旧石器時代から縄文時代草創期の遺物がたくさん見つかりました。旧石器時代は、ナイフ形石器・細石器、縄文時代草創期は、石槍・石鏃・有舌尖頭器・石斧・スクレイパー・磨石・石皿・土器が見つかっています。この出土量はこれまで県内で見つかるこの時期の遺跡の総遺物量にも等しいものでした。

見つかった縄文時代草創期の土器についていた炭の年代を調べたところ、今から11,000年以上前の県内でも最古の土器であることがわかりました。また、遺跡からは、たくさんの石槍や石鏃をはじめとする石器や、石材や剥片(石器をつくる時にできる破片・石くず)が見つかることから、石槍をはじめとする石器作りが行われた場所であることがわかっています。



遺跡の全景(南から)



発掘の様子(平成16年)



遺物の集中



石槍の出土の様子(平成16年)

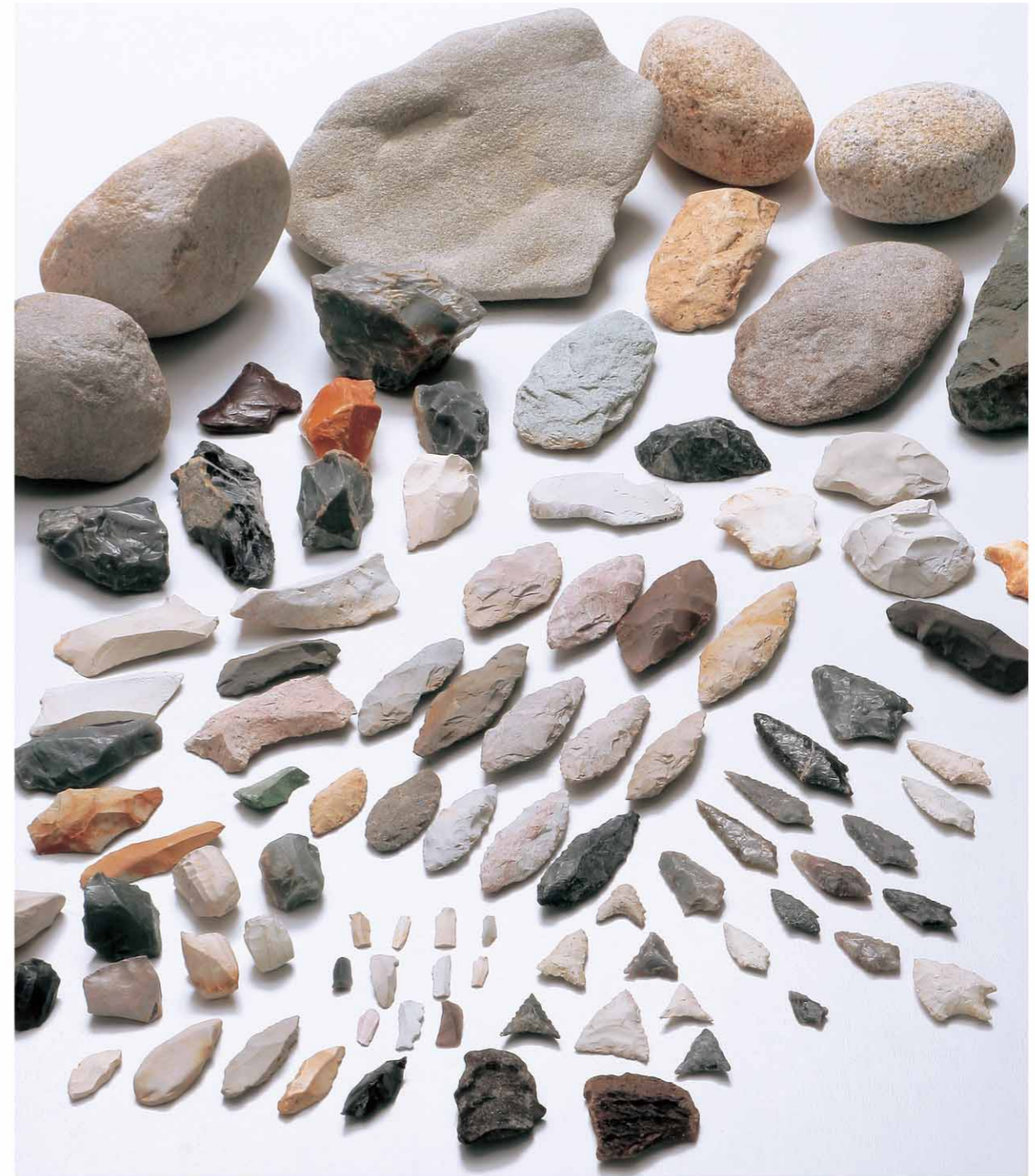


石鏃の出土の様子(平成16年)



遺跡所在地
詳しくはP28

宮西遺跡



宮西遺跡から出土した旧石器～縄文時代草創期の遺物



雁合遺跡

【がんどういせき】田原市大久保町雁合・三沢地内
後期旧石器時代～縄文時代早期前半(20,000～9,000年前)

遺跡は、標高139.1mの「向山」と呼ぶ山のすそに立地しています。昭和29年、愛知大学が調査を行い弥生時代前期の住居跡をはじめ、弥生土器、縄文土器、石槍、石鏃、磨製石斧など縄文時代草創期から弥生時代中期にいたるまでの遺物が見つっています。

平成20年の発掘調査では、縄文時代早期の炉穴8基、集石炉11基、住居跡1か所、旧石器時代の石器(ナイフ形石器・細石器)、縄文時代草創期の石器(石槍・有舌尖頭器・スクレイパー)、縄文時代早期の土器(押型文土器・捺糸文土器)、石器(石鏃・スクレイパー・石斧・石皿・磨石)、が見つっています。

旧石器時代から鎌倉時代までの遺物がありますが、縄文時代早期前半が中心です。宮西遺跡同様に石器作りに関わる石材、剥片も豊富で、日常生活に必要な磨石、石皿もたくさん見つっているので、縄文時代早期の大規模な遺跡だったことが想像されます。この他に、土坑内で鍬形石鏃14点が出土した特別な事例もあります。

雁合遺跡は渥美半島の早期の中心的な遺跡で、宮西遺跡とともに旧石器～縄文時代早期の愛知県を代表する重要な遺跡です。



住居跡(平成20年)



炉穴から見つかった押型文土器(平成20年)



焼けた石が詰まった集石炉(平成20年)



集石炉(左)と炉穴(右)



- 土坑…地面に掘られた穴。遺跡ではたくさんの土坑が見つかります。ゴミ捨て、墓、儀式、貯蔵などのために掘った穴だったと思われます。小さな穴は柱を立てた穴と思われます。
- 炉穴…縄文時代早期に見られる、穴を掘って、ある目的で火を焚いたあとがある遺構。九州から東北地方まで見つかる。くん製、その他の調理、暖房施設、土器を焼いた穴など、さまざまな説があるなその遺構。
- 鍬形石鏃…柄につける部分が大きくえぐられV字形をした矢じり。縄文時代早期に使われた。
- 集石炉…焼けた石が詰まった土坑で、炉穴とほぼ同じ時期に見つかる。石蒸料理に使われたものとも言われている。穴の壁は高温で焼けている場合もある。
- 押型文土器…丸い棒に文様をほり、それを回転させながら押しつけて文様をつけた、縄文早期にみられる土器。
- 捺糸文土器…丸い棒によりをかけた糸を巻き、回転させながら押しつけて文様をつけた、縄文早期にみられる土器。



出土遺物(上段:押型文土器・捺糸文土器、下段:土坑から見つかった鍬形石鏃)



遺跡の全景





籠田遺跡

【かごたいせき】田原市野田町籠田
後期旧石器時代～縄文時代早期前半が中心(24,000～8,000年前)

遺跡所在地
詳しくはP28



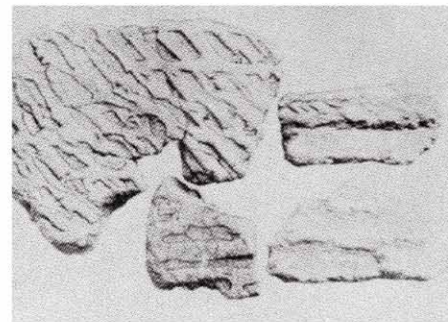
籠田遺跡

遺跡は、野田中学校周辺の丘陵周辺に位置しています。かつて、中学校の敷地ではたくさんの石鏃が見つかったことが知られ、愛知大学の横山将三郎が昭和27年に発掘調査を行いました。石鏃、磨石、剥片、押型文土器が見つかりました。横山は、石鏃や、未完成品、剥片がたくさん見つかったため、石鏃の製作場所ではないかと推定しています。石の材質は、チャート、黒曜石、安山岩(サヌカイト)などが含まれています。

愛知県史の史料編(文献②)を作る際に、野田中学校周辺で見つかった石器類を調べ直しました。すると旧石器時代のナイフ形石器、細石器、縄文時代草創期の石槍、有舌尖頭器まで含まれていることがわかりました。見つかった石器から、旧石器時代～縄文時代早期を中心とし、晩期にいたる遺跡と考えられます。住居跡が見つからないため、集落の跡かはっきりいえませんが、狩りに使う道具があることから、旧石器時代から縄文時代には遺跡周辺、遺跡を拠点に狩りが行われていたことが想像されず。愛知県でも貴重な遺跡です。



遺跡の全景(東から)



籠田遺跡から見つかった押型文土器(文献①より)



大量に見つかった石器(上段左から細石器・ナイフ形石器・有舌尖頭器・石槍、下は石鏃)

北屋敷貝塚

【きたやしきかいづか】田原市石神町北屋敷
縄文時代中期中頃(4,500年前)

遺跡所在地
詳しくはP28



北屋敷貝塚

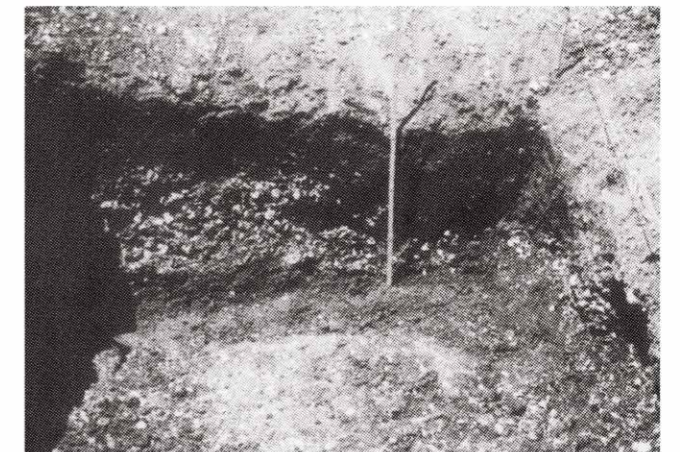
国道259号線の石神交差点の南に位置し、縄文海進によってうちあげられた、標高2～3mの細礫の上に作られています。現況は民家が建ち並んでいます。東海地方の縄文時代中期中頃の土器の基準となった遺跡として有名です。

大正年間におおやまかしわが調査を行い、昭和14年、東京考古学会のよしだとみお、すぎはらそうすけによって紹介されました。昭和25年、南山大学中山英司が民家脇の畑を2×2mの大きさを発掘を行い、10～60cm厚の貝層が見つかりました。正式な報告がなされていないため、貝塚の広さやその位置もはっきりしていません。

貝塚は主にハマグリで構成され、動物の骨については不明です。土器、石鏃、石匙、打製石斧、石錘などがみつかりました。西側の台地上にある平野貝塚周辺は縄文時代前期後葉の大規模な遺跡があります。



遺跡の現況(東から)



昭和25年調査時の写真(文献⑤より)

- 大山柏(1989～1969) …考古学者、陸軍大将元帥、大山巖の息子。
- 杉原荘介(1913～1983) …明治大学教授。戦後の考古学会をリードした考古学者。
- 吉田富夫…愛知県出身の考古学者。



出土した縄文時代中期の土器



県指定史跡

伊川津貝塚

●昭和49年10月9日指定
【いかわづかいづか】田原市伊川津町郷中ほか
縄文時代後期終わり～晩期(3,200～2,300年前)

貝塚は伊川津集落の中にあり、神明社境内を中心として、南北60m東西180mに広がる、東海地方屈指の大貝塚です。伊川津貝塚の南には高低差15mもある台地があり、この間には現在は水田となっている低地と、周辺には小さな川が集中しています。遺跡の北側には干潟が広がり、2km東には岩礁が、背後の台地を過ぎれば山があり、さまざまな自然環境に囲まれている絶好の場所です。

明治36年、大正11年、昭和11年・12年・24年・25年・32年・34年・59年、平成4年と発掘調査が行われ、大野雲外、小金井良精、柴田常恵、大山柏、清野謙次、中山英司、鈴木尚、久永春男など有名な考古学者、人類学者が伊川津の地を訪れました。縄文時代後期終わり弥生時代までの生活が見られますが中心は縄文時代後期末から晩期です。石器(石鏃、磨製石斧、打製石斧、石皿、敲石、磨石、石錘、石錐、石匙、石棒、石剣、石刀、石冠)、骨角器(鏃、根バサミ、ヤス、ヘラ、釣針、針、錐、弓矢、貝輪、腰飾、耳飾、イノシシ牙製足飾)、土偶が見つかっています。埋葬人骨も191体見つかっています。

伊川津貝塚で有名なものは明治37年に発見された「有髯土偶」で、「ヒゲ(髯)」のある土偶として、当

時、人種論争に貢献したもので、キズのある人骨、同じく、又状研歯がほどこされた頭骨も有名です。

昭和59年の調査では、動物の骨・貝を分析し、季節ごとの生活のようすを復元、人の歯冠計測による親族関係の研究、お墓の復元など新しい視点、意欲的な分析が行われた画期的な調査でした。貝層が詳細に調査されたため、動物遺体の様子がよくわかっています。貝はアサリ・オニアサリ・スガイが多く、獣骨ではイノシシ、シカが圧倒的に多く、鳥、クジラなどの海獣、魚類ではタイ、スズキ、フグが多く見つかっています。

多くの埋葬された縄文人骨が見つかり、土器棺墓、屈葬、伸展葬、盤状集骨墓などのさまざまな葬り方が確認されました。このように伊川津貝塚は明治時代から学会に話題を提供し、又状研歯の頭骨をはじめ縄文時代の独特のイメージを植え付けた重要な貝塚です。

■歯冠計測…歯は遺伝的要素が大きく、歯冠部(エナメル質部分)の大きさを様々な方向から計測し、その値を比較することによって、親族かどうかを検査する方法。



有髯土偶
ヒゲと思われていたものは、イレスミと考えられます



又状研歯人骨
縄文時代の呪術的なイメージを植えた特異な人骨(前歯をフォーク状に加工)



大量に見つかった埋葬人骨(昭和11年 文献13より)



発掘調査のようす(昭和58年)



出土遺物(土器・石器・骨角器)



遺跡の現況(南西から)

国指定史跡 吉胡貝塚 ●昭和26年12月26日指定
【よしごかいづか】田原市吉胡町矢崎
縄文時代後期末～晩期(3,200～2,300年前)

吉胡貝塚は豊橋鉄道三河田原駅から1kmほど北に行った、内湾の三河湾に注ぐ汐川河口左岸に位置しています。貝層は葦王山南の台地斜面から縄文海進でつくられた細礫の浜堤上(標高2～3m)にあります。

大正11・12年、京都大学の清野謙次が発掘調査を行い、特に縄文人骨の出土は当時の人たちに衝撃をあたえました。昭和26年に、文化財保護委員会が発掘調査を行い、土器、石器、骨角器、縄文人骨などが多数出土しました。昭和55年の調査は貝塚周辺に遺跡がどこまで広がっているか調査が行われ、吉胡墓地の下に弥生時代初めの住居跡が見つっています。昭和58年にも貝層断面模型を展示するための調査が行われました。平成13～18年度の史跡整備における調査では、埋葬人骨12件、土器棺墓7基を確認しました。広い貝塚をはじめ4か所以上の貝塚が存在することがわかりました。

遺物は縄文時代中期のものから鎌倉時代まで途切れなく見つかりますが、貝塚のつくられた時期は、縄文時代後期末から弥生時代前期にあたります。貝層分布面積約5000㎡にも及び、これまでの調査で人骨358体分確認されています。石器(石鏃、石錐、

スクレイパー、打製石斧、磨製石斧、磨石、砥石、凹石、石錘、石刀、石剣、石冠、敲石、石皿、石匙、礫器)、骨角器(根バサミ、鏃、錐、ヤス、銚、針、釣針、弓筈、ヘラ、髪飾、垂飾、腰飾)、貝輪、貝鏃、貝の加工品、貝玉、玉、土偶、土製耳飾が見つっています。

貝塚で見つかる貝は、ハマグリ、マガキ、アサリをはじめとする干潟に生息するものから、ダンベイキサゴなどの外洋のものも含まれています。獣ではイノシシ・ニホンジカが多く見つっています。魚についてはフグ、クロダイ、スズキ等が多いほか、さまざまな魚が見つっています。

吉胡貝塚は、国が発掘した日本で最初の遺跡であり、多くの縄文人骨が発見され、日本の人種論の議論の中心にあった遺跡です。また、さまざまな埋葬の方法、埋葬された人骨に供えられた装飾品など、埋葬を中心とした縄文人の精神的な生活を研究するには欠かせない遺跡です。

平成19年11月19日、見晴らしの良い緑の丘が広がる園地、貝塚の堆積状況がわかる屋外の展示施設、資料館が整備され、市民の憩いの場所となっています。



遺跡の現況(南から)



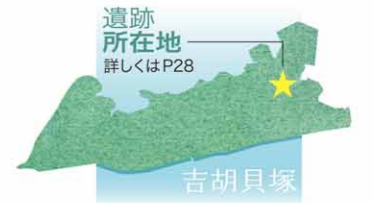
昭和26年の調査の様子



出土した日常で使われた遺物(骨角器・石器) 天理大学附属天理参考館蔵



縄文時代後期末～晩期の土器



平成17年の調査の様子



平成17年に見つかった人骨(老年の女性)



川地貝塚

【かわちかいづか】田原市亀山町川地
縄文時代後期中頃(3,500年前)



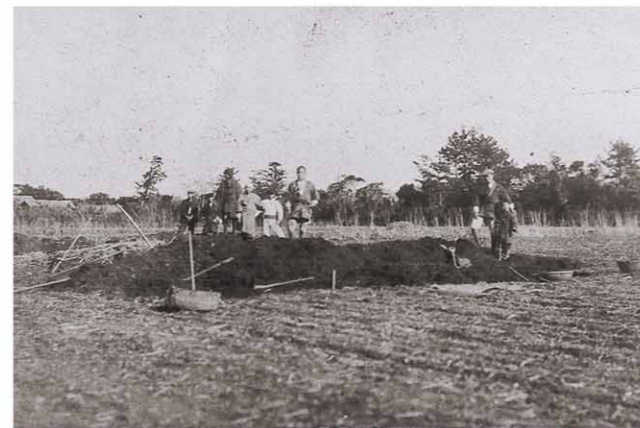
川地貝塚は、亀山小学校の東側の、石堂山から北側に延びる段丘端に位置します。貝塚の北側は低く、現在は農地となっていますが、かつては海水が入り込んでいました。貝塚は、大正時代に地元の齋藤専吉によって発見され、大正11年に京都大学の清野謙次が発掘しました。このときすでに貝層は削られ、限られた範囲でしか残っていなかったようで、平成3年・5年の調査でも、貝層は残っていませんでした。

埋葬人骨は骨29体が見つっています。縄文土器、骨角器(斧、鏃、弓矢、ヤス、貝輪、ヘラ)、石器(打製石斧、砥石、石皿、石錘、石鏃、磨製石斧、石棒、石剣、石刀、石冠)、土面が見つっています。貝類はアサリ、スガイが、獣骨ではイノシシ、シカが、魚類では、スズキ、クロダイ、フグが多く見つっています。土器については縄文時代中期、後期前葉からほぼ晩期、弥生前期まで見られますが、後期中頃が貝塚の中心だったようです。

川地貝塚で注目する点は、海の丸石を打ち欠いた錘、石器が異常なまでに多いこと、この地方では珍しい土面が見つっていることです。また平成5年の調査では、サメ、タヌキの背骨の装飾品をまとった老年の女性が発掘されています。吉胡、保美、伊川津貝塚が作られる前の貝塚として大変重要です。



遺跡の現況(北から)



大正11年の調査のようす



土面 文献④より



出土した遺物



人骨の出土状況(平成5年 老年女性)

保美貝塚

【ほびかいづか】田原市保美町平城
縄文時代晩期(3,000~2,300年前)



福江湾に注ぐ免々田川の下流の西側の台地上に位置しています。これまでの調査の結果から、3か所の貝塚が確認されています。

最初の発掘は明治36年に大野雲外によって行われ、大正11年、昭和16年・38年・40年・41年・51年と発掘調査が行われ、小金井良精、大山柏、柴田常恵、長谷部言人、坂詰仲男、鈴木尚など有名な考古学者、人類学者が発掘に訪れています。

埋葬された人骨は30体以上が確認されています。縄文土器、骨角器(鹿角斧、鏃、根バサミ、弓矢、ヤス、ヘアピン、貝輪)、石器(石鏃、打製石斧、磨製石斧、石棒、石刀、石剣、石冠、石匙、石錘、石皿、敲石)、土偶が見つっています。土器は縄文時代晩期のもものが中心で中期の土器も少量見つっています。弥生・古墳時代の遺物も豊富で重要美術品の子持勾玉、銅鏃も見つっています。特に注目されるのが、又状研歯をまねたヒスイ製の玉です。貝類はアサリ、オニアサリ、キサゴ、アカニシ、マガキ、ハマグリが、陸の獣の骨ではイノシシ、シカが中心ですが、海の獣類の出土が目を引きます。

清野謙次は、石鏃が大量に見つっているため、「保美貝塚は石鏃製造所でここから付近の村へ輸出したのではないかと、興味深い説を発表しています。ここで見つかった遺物、骨から狩りばかりでなく、外海にも出向き盛んに活動した姿が想像されます。

現在、貝塚は畑となっており、貝の破片が散らばっています。



遺跡の現況



人骨の出土状況(昭和40年)



出土した遺物(土器・石器・骨角器)

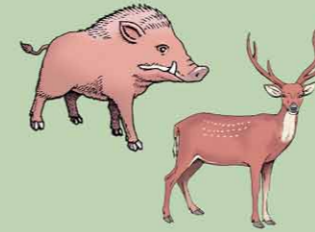


もっと知ろう、 旧石器・縄文の くらし

ここでは、意外に知られていない
当時の人たちのくらしぶりを紹介します。



縄文人が食べた食物



陸の獣では、体が大きく、肉は食べ物、皮は衣服、角・きば・骨は道具にと利用価値が高いイノシシ、シカが多くとられていました。カモやキジなどの鳥も少な

からず食べていたようです。遺跡間で違いがあるのは海のもので、伊川津、吉胡貝塚では河口や浅瀬に集まってきたさまざまな小魚を網でまとめてとっていたようです。クロダイ、スズキなどの大きな魚はヤスで突いてとっていました。たとえば、保美・川地貝塚では、外海に近いカモやキジなどの鳥も少なからず食べていたようです。遺跡間で違いがあるのは海のもので、伊川津、吉胡貝塚では河口や浅瀬に集まってきたさまざまな小魚を網でまとめてとっていたようです。クロダイ、スズキなどの大きな魚はヤスで突いてとっていました。たとえば、保美・川地貝塚では、外海に近いカモやキジなどの鳥も少な



吉胡貝塚で見つかる貝



伊川津貝塚で見つかる貝



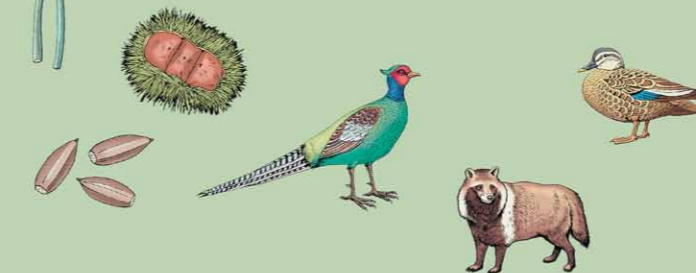
珍しいところではニホンカワウソ、ウミガメ、イルカも見つかっています。

貝は、吉胡貝塚ではハマグリ、アサリ、マガキなどの干潟の貝が多く、伊川津貝塚では、アサリ、スガイが主体で岩場の貝の比率が高くなっています。それぞれの貝塚で見つかるものは、周囲の自然環境を表しているようです。その一方、表浜でとれるダンベイキサゴを好んでとっていました。貝塚から見つかる動物類は100種類にも及び、さまざまなものを食べていたことがわかっています。



縄文人が食べた獣の骨 (吉胡貝塚)

貝や獣ばかり注目されますが、当時の人たちの主食はデンプン質の食べ物です。今は米や小麦ですが、当時はドングリが主なカロリー源だったでしょう。シイ、その他のドングリ、ヤマノイモ、ユリ、ワラビ、クズなど山や野の植物を利用していたのでしょ



縄文人が食べた魚の骨 (吉胡貝塚)



縄文のおしゃれ

縄文人は立場の違いを表すため、体を守るおまじないのため、体を飾るためなど、さまざまな素材の装飾品を身につけます。縄文人は意外におしゃれだったのです。刺青や、渥美半島の縄文人は健康な犬歯や前歯などを抜く^{ばっし}抜歯^{うわ}、上あごの前歯に刻みを入れた^{さじょうけんし}叉状研歯^しなど、体を直接飾ることもしています。



縄文時代の装飾品 (吉胡貝塚資料館 展示パネルより)



ばっし 抜歯人骨 (吉胡貝塚・H17SZ04)



さじょうけんし 叉状研歯人骨 (吉胡貝塚・S26年 17号)



こしかざり 鹿角の腰飾 (吉胡貝塚)



骨・角・牙・石でつくられた縄文時代の玉類 (吉胡貝塚)



最高級の価値を持つオオツタノハの貝輪 (伊川津貝塚)

縄文のマツリと貝塚

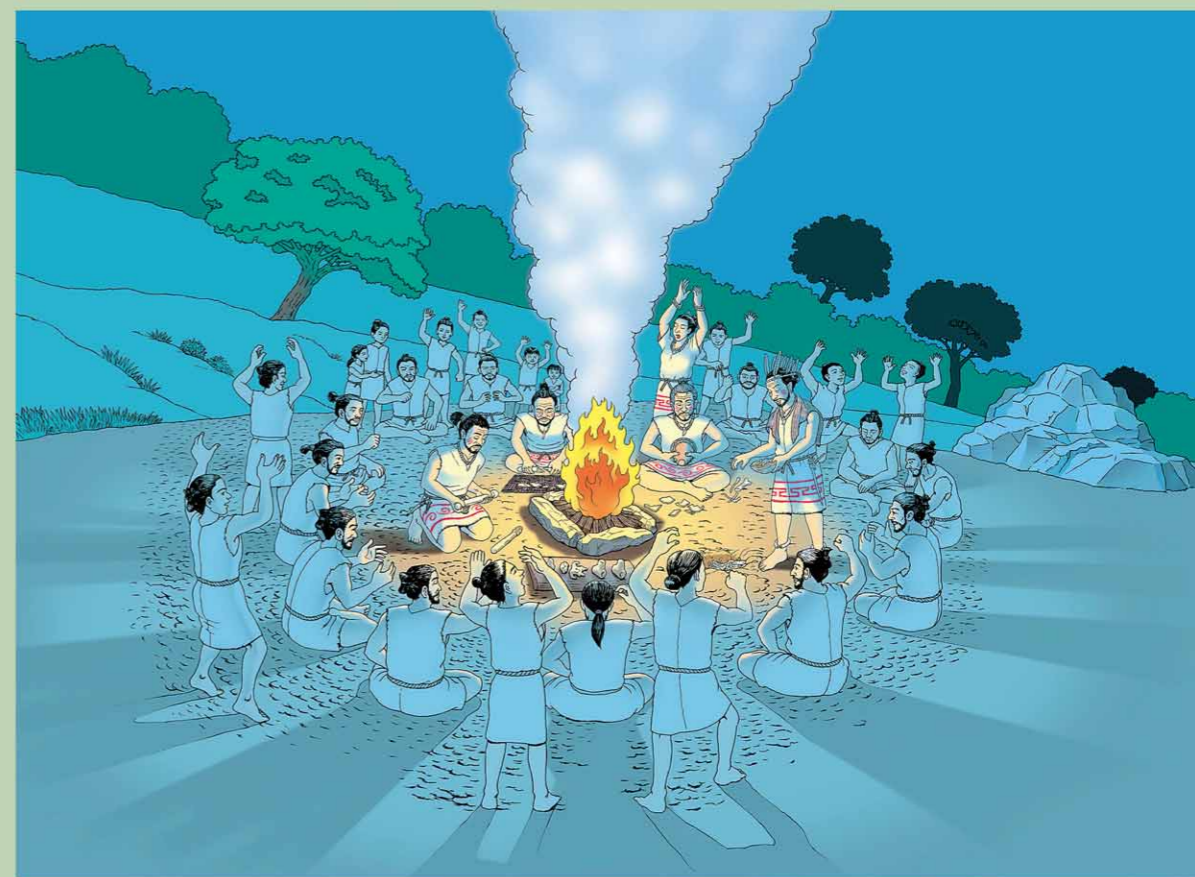
貝塚からは、縄文人が食べた貝がら、動物の骨とともにこわれた土器や石器などの道具、ていねいに葬られた人間や犬まで見つかります。貝塚はゴミ捨て場ではなく、この世の役目を終えた(死ぬ、壊れる)あらゆるものを集め、あの世に送り出し、再びこの世に帰ってくることを願った神聖な場所^{おそ}でした。縄文人たちは彼らを取り巻くすべてのものを畏れ敬い、やさしい気持ちで接していました。人間までもが貝塚に葬られている理由がここにあります。また、^{せきぼう}石棒^{せきとう}、^{せっけん}石剣^{せっかん}、^{どぐう}石冠^{どぐう}、土偶などを使い、マツリをとりおこない、ムラの精神社会を安定させていました。



埋葬のようす (吉胡貝塚資料館常設展示)



土偶 (左: 胴部の破片、右: 頭部 保美貝塚)



貝塚での縄文のマツリ (吉胡貝塚資料館常設展示)



ほうむ 葬られた縄文人

縄文時代の人たちは、身長は低く(平均男性158cm、女性は148cm)、骨が太く、筋肉隆々のがっしりした体つき、そして顔の幅が広くあごががっしり、目鼻だちのハッキリした顔だと言われています。

渥美半島は、縄文時代の人骨が多く出土したことで有名です。とくに吉胡貝塚は貝塚から出土した縄文人骨が日本で一番多いのです。

- 吉胡貝塚 358体
- 伊川津貝塚 191体
- 保美貝塚 120体以上
- 川地貝塚 29体 (平成19年度現在)

なぜこんなに見つまっているかという、

- ①くらしやすいところなので大きな集落がつけられ、たくさんの人が住んでいた
 - ②貝塚に人を葬るといった文化が発達していた
 - ③貝塚が壊されず調査が行われた
- など、さまざまな説があります。

渥美半島の縄文時代には、穴を掘って体を折り曲げた屈葬、体を伸ばした伸展葬、また葬った遺体をさらに葬りなおす再葬などが行われ、とくべつな副葬品を持ち、ていねいで複雑な埋葬が盛んに行われていました。



平成17年度4号人骨をもとに復元



屈葬(伊川津貝塚S58年17号)…貝輪をはめています



伸展葬(保美貝塚)



盤状集骨葬(保美貝塚)…手足の骨を多角形に並べています



土器棺墓(吉胡貝塚 土器棺6)…幼児の頭の骨が見えます

かい わ 貝輪づくりのムラ

渥美半島の縄文人は、太平洋岸まで出向き、死んで打ちあがったベンケイガイ・サトウガイの貝殻を拾い持ち帰り、ムラで貝の腕輪に加工して交易品としていました。これらの貝は大きく丈夫で色・形が美しく、貝輪づくりに適したものです。渥美半島は房総半島、男鹿半島とともに、縄文時代終わりの日本における貝輪づくりの重要な場所だったので

貝輪は主に腕にはめる女性用のアクセサリーと考えられていますが、貝塚からは、壊れていない使えるような貝輪まで見つかることがあります。そうかと思えば、割れてしまった貝輪を補修したものもあります。また、輪の内側が磨かれていないものを使っていたり、大人になってからははめることのできない小さな貝輪が使われている例があります。今の私たちの感覚とはまったく違った意味で、貝輪が使われていたのかもしれない。



多量のベンケイガイ貝輪破片(伊川津貝塚)



渥美半島で作られた貝輪(吉胡貝塚)



打ちあがった貝のようす(田原市大草町海岸)



貝輪をつけて葬られた縄文人(吉胡貝塚 昭和26年19号)



ベンケイガイ(左)・サトウガイ(右)



ためになる 知識

狩の道具

石槍【いしやり】

すどく割れる石で作られ、長い柄の先につけ、突いたり投げたりする狩猟のための道具。

有舌尖頭器【ゆうぜつせんとうき】

縄文時代草創期にさかんにつくられた、柄につける部分に、突起が付いた石槍のことをいう。



石槍は柄につけて突き刺し、有舌尖頭器は、投げ槍に、石鏃は弓矢として使ったようです。鹿の角などで作った骨鏃もあります。根バサミは、石鏃と組み合わせて使われました。

ナイフ形石器【ないふがたせっき】

旧石器時代に使用された石器の一つで、剥片の鋭い縁を残して、その他の部分に急角度の加工を行ったもので、槍やナイフなどさまざまな使われ方をした。



ナイフ形石器 (左2点:川地遺跡・右:山崎遺跡)



細石器【さいせっき】

旧石器時代の終わりに作られた、整えた石の素材(細石核)から細く小さい刃(細石刃)を大量につくる方法。細石刃は右の図のように組み合わせて使う。



細石器 (上段:細石核・下段:細石刃) (宮西遺跡)

採集の道具

石斧【いしおの】

主に木を切るための石の道具で、磨いて刃部を作ったものを磨製石斧、割って作ったものを打製石斧と言います。打製石斧は土掘り具として使用したものがほとんどです。鹿の角で作った鹿角斧も土掘り用のものと考えられています。



漁の道具

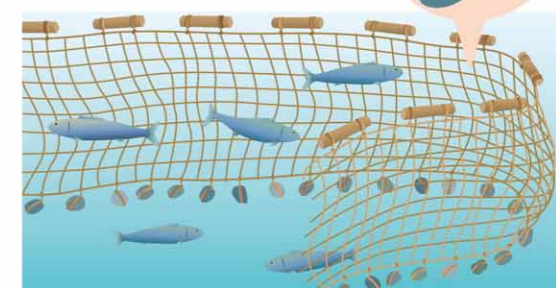
骨製ヤス・銚【こっせいやす・もり】

魚などを突くための漁具。銚はかえしがついています。



石錘【せきすい】

石の両端を打ち欠いてひもをかけることのできるように加工したもの。主に魚を捕るための網おもりと考えられています。また、編み物用のおもりとする説もあります。



漁具【ぎょぐ】



石のおもり・貝のおもり・釣針、骨製ヤス(両端は復元品)

ためになる知識

加工の道具

石皿、磨石、敲石【いしざら、すりいし、たたきいし】

どんぐりなどの殻を割ったりすりつぶすなどの調理、道具の加工などのための道具。主に海岸に落ちている丸石などを利用して使います。



▲石皿と磨石の使い方

スクレイパー・石匙・錐【すくれーぱー・いしさじ・きり】

石を割って作ったナイフ。切ったり削ったりしています。錐には骨、^{きば}牙、石製のものがあります。



▲動物の肉を切ったり、皮をなめしたりする時に使います。

▲動物の皮などに穴をあけます。

交流するモノ



チャート



黒曜石



サヌカイト



下呂石



ヒスイ



- チャート…生物堆積岩。瀬美半島の山地の大半はこの岩である。質の良いものは石器の素材として使われる。
- 黒曜石…ガラス質の火山岩。黒く半透明で、ガラスのようになるとく割れるため、石器の材料として使われる。瀬美半島でも遠く長野県産のものがよく見つかる。
- サヌカイト…奈良県二上山から運ばれた黒色の硬い石。讃岐石とも呼ばれる。
- 下呂石…岐阜県下呂(湯ヶ峰)から持ち込まれた石。

縄文文化を代表する遺物 土器

瀬美半島は東西の文化の交流点です。さまざまな地域との交流を示す土器も見つかります。



田原市で最も古い土器(約11000年前・宮西遺跡) 長さ4cm



縄文時代前期・中期の土器(下段:中期・吉胡貝塚、上3段:前期・平野貝塚)



関西系の縄文土器(後期・伊川津貝塚) 高さ45cm



関東系の縄文土器(後期・伊川津貝塚) 高さ11cm



遺体を納めた縄文土器(晩期・伊川津貝塚) 高さ48cm



遺体を納めた縄文土器(晩期・伊川津貝塚) 高さ32cm



年前	時代	環境の変化	社会の変化など	宮西遺跡	雁合遺跡	青津前田遺跡	平野貝塚	北屋敷貝塚	川地貝塚	吉胡貝塚	伊川津貝塚	保美貝塚
30000	旧石器時代		●日本列島に本格的にヒトが入ってくる									
25000		●始良カルデラが大噴火、火山灰が広がる	●大型獣の狩猟が活発になる									
20000		●最寒冷期	●細石器文化が流入									
18000		●温暖化が始まり、海面上昇が始まる										
15000		●ナウマンゾウ・オオツノジカが絶滅する ●照葉樹林が広がる										
13000	縄文時代	●一時的な寒冷化	●植物食の活発化。土器・石鏃の使用が始まる									
10000		●海面が上昇する(縄文海進)	●定住化がすすみ貝塚が作られるようになる ●漆(うるし)の使用が始まる ●大陸からイヌが持ち込まれる									
8000		●対馬暖流が日本海へ流入 ●鬼界カルデラが噴火しアカホヤ火山灰が広がる										
6000		●最温暖期 ●海進最盛期 ●照葉樹林が成立	●貝塚の増加 ●漁業の発達									
5000	中期		●自然環境に対する人間活動の影響が高まる									
4000	後期	●気候が寒くなる	●貝塚の衰退 ●社会の停滞									
3000	晩期		●呪術が盛んになる ●西日本で陸稲が始まる									
2000	弥生時代		●本格的な水稲農耕の開始									
		後期		●金属器の加工が始める								

年代はおおよその値です。

参考・出典文献

- ① 横山将三郎 1955『渥美半島の考古学的調査研究-田原遺跡群-』『愛知大学総合郷土研究所紀要』第2号
- ② 愛知県 2002『愛知県史 資料編1 考古1 旧石器・縄文』資料編
- ③ 田原市教育委員会 2007『宮西遺跡発掘調査概要報告書』
- ④ 清野謙次 1969『日本貝塚の研究』
- ⑤ 安藤義弘・松原隆治・伊藤秋男 2007『中山英司と愛知の遺跡』『伊藤秋男先生 古希記念考古学論文集』
- ⑥ (財)愛知県埋蔵文化財センター 1995『川地遺跡』
- ⑦ 渥美町教育委員会 1993『川地遺跡』
- ⑧ 文化財保護委員会 1952『埋蔵文化財発掘調査報告第1号 吉胡貝塚』
- ⑨ 田原市教育委員会 2007『国指定史跡吉胡貝塚(1)』
- ⑩ 田原市教育委員会 2007『吉胡貝塚ものがたり』
- ⑪ 吉胡貝塚資料館 2008『吉胡貝塚資料館展示案内』
- ⑫ 田原市教育委員会 2008『国指定史跡吉胡貝塚整備事業報告書』
- ⑬ 渥美町教育委員会 1972『伊川津貝塚』
- ⑭ 渥美町教育委員会 1988『伊川津遺跡』
- ⑮ 渥美町教育委員会 1995『伊川津遺跡(1992年調査)』
- ⑯ 渥美町教育委員会 1991『渥美町史 考古民俗編』

遺跡名 遺跡の概況	現在地	時期
1 黒河B遺跡 石鏃、条痕文土器	大久保町黒河	縄文晩期?
2 清水遺跡 縄文土器	吉胡町清水	縄文晩期?
3 吉胡郷仲遺跡 磨製石斧	吉胡町郷仲	縄文晩期?
4 佐藤遺跡 条痕文土器、石鏃、石槍、剥片	大久保町佐藤	縄文草創期
5 黒河遺跡 有舌尖頭器、剥片、石器	大久保町黒河	縄文草創期
6 山崎遺跡 ナイフ形石器、細石器、剥片、有舌尖頭器、鍬形石鏃、磨製石斧、打製石斧、叩き石、石鏃	野田町東山崎	旧石器時代 縄文草創期・晩期?
7 長代遺跡 石槍、石鏃、剥片、磨製石斧、縄文土器	野田町長代	縄文草創期・晩期
8 御菌遺跡 石鏃、剥片	大草町御菌	縄文時代?(弥生時代主体の遺跡)
9 下畑遺跡 磨製石斧、石鏃	吉胡町下畑	縄文晩期
10 田原城跡(藤田曲輪) 縄文晩期土器、剥片	田原町巴江	縄文晩期
11 青津前田遺跡 縄文前期土器、条痕文土器、石匙、磨製石斧、石皿	神戸町前田	縄文前期
12 柏坪A遺跡 石鏃、剥片、条痕文土器、	野田町柏坪	縄文時代?
13 田原城惣門跡 縄文後期土器 石鏃 石鏃	田原町殿町	縄文後期
14 小今口遺跡 石鏃、石斧、石鏃、剥片、敲石、条痕文土器	若見町池ノ上	縄文晩期
15 ぜんご遺跡 磨製石斧	高松町前後	縄文時代?
16 へんび遺跡 石鏃	赤羽根町北浦	縄文時代?
17 八幡上貝塚 縄文後期土器 石鏃	中山町八幡上	縄文後期
18 下地貝塚 縄文前期・後期土器、石鏃、石鏃、剥片	保美町下地	縄文前期 後期
19 平野貝塚 縄文前期土器、磨製石斧、石鏃、石匙、石鏃、剥片	石神町平野	縄文前期

遺跡名 遺跡の概況	現在地	時期
20 鍛冶田原遺跡 石鏃、石鏃	中山町鍛冶田原	縄文時代?
21 西田原遺跡 縄文土器、石斧、石鏃、石鏃	中山町西田原	縄文時代?
22 ドウツン松遺跡 縄文後期土器、石鏃	中山町岬	縄文後期
23 段土遺跡 縄文土器、石鏃、石鏃	保美町段土	縄文時代?
24 船越遺跡 石鏃	伊良湖町古山	縄文時代?
25 島貝塚 石鏃 石匙	福江町中紺屋瀬古	縄文時代?(弥生時代主体の遺跡)
26 羽根貝塚 石鏃	福江町中羽根	縄文時代?(弥生時代主体の遺跡)
27 大本貝塚 石鏃	伊川津町大本	縄文時代?(弥生時代主体の遺跡)
28 境戸遺跡 石鏃	福江町境戸	縄文時代?(弥生時代主体の遺跡)

見学できる施設

休館日はお問い合わせ下さい。

- 1 赤羽根文化会館 文化ホール展示室 (無料) ☎0531-45-3939
展示内容▶渥美半島最古の石器と渥美窯資料
〒441-3502 愛知県田原市赤羽根町赤土1
- 2 田原市渥美郷土資料館 (無料) ☎0531-33-1127
展示内容▶伊川津・保美貝塚 柵2号銅鐻 製塩土器資料
〒441-3695 愛知県田原市古田町岡ノ越6-4 FAX.0531-34-1010
- 3 吉胡貝塚資料館 (有料) ☎0531-22-8060
展示内容▶国史跡吉胡貝塚資料 まが玉づくり、火おこしなどの体験
〒441-3402 愛知県田原市吉胡町矢崎42-4 FAX.0531-22-8070
URL▶http://www.yoshigo.gr.jp
- 4 田原市博物館 二の丸櫓 ☎0531-22-1720
〒441-3421 愛知県田原市田原町巴江11-1 FAX.0531-23-3770
URL▶http://www.taharamuseum.gr.jp/



旧石器・縄文遺跡分布図

[制作] 共和印刷株式会社



田原の文化財ガイドⅠ
田原市のはじまり
旧石器、縄文時代のたはら

[編集・発行]

田原市教育委員会

愛知県田原市田原町南番場 30-1 TEL.0531-23-3531

平成21年3月発行

令和5年3月発行 デジタル版

